

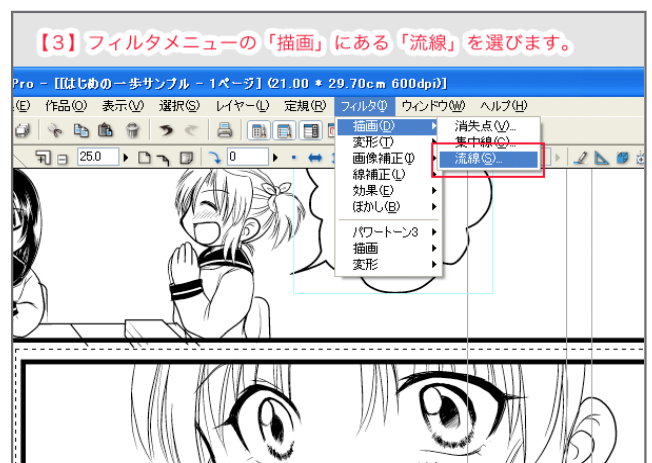
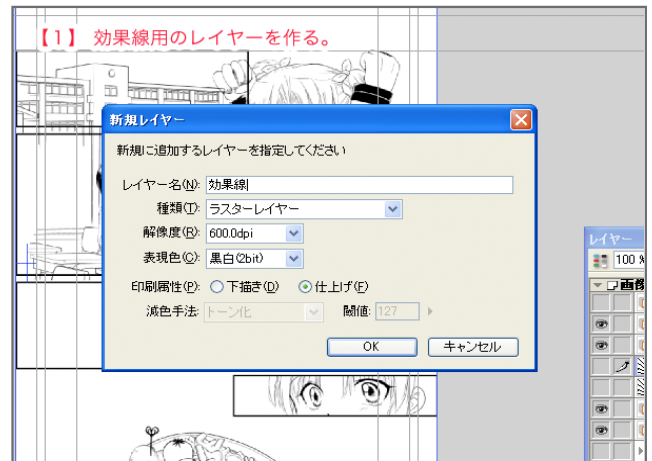
効果線を入れよう！ ～流線を入れてみる～

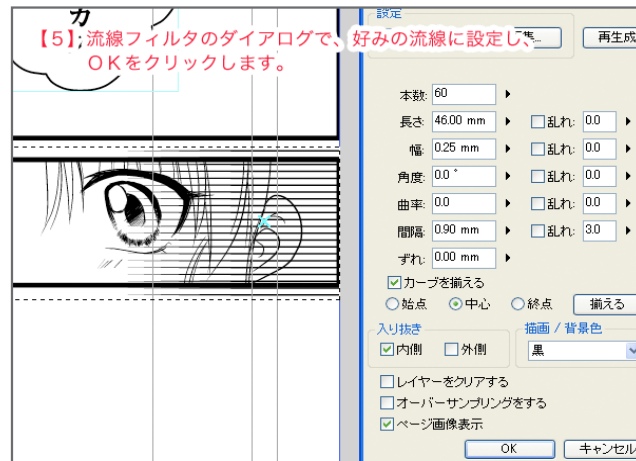
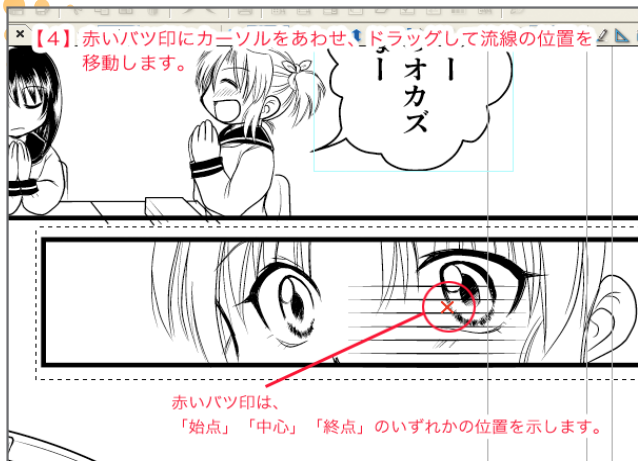
今回は、「集中線フィルタ」、「放射線定規」を使った集中線の入れ方を紹介しました。今回は、横に流れる効果線、「流線」を入れていこうと思います。流線を入れるときに使う機能は、「流線フィルタ」と「平行線定規」。基本的な操作は前回までに紹介した「集中線フィルタ」、「放射線定規」と同じです。

では、早速、流線を入れてみましょう。

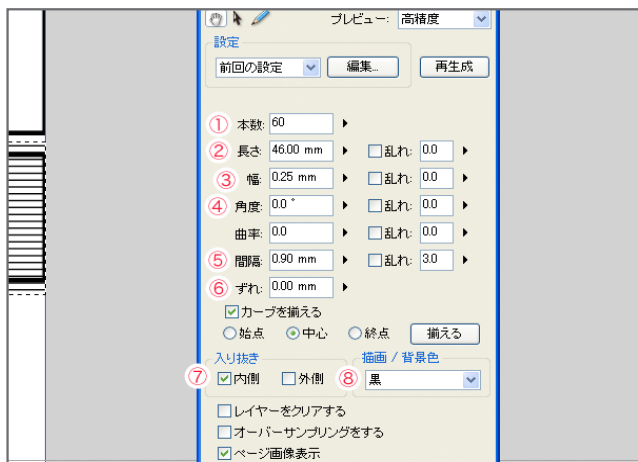
流線フィルタを使って流線を入れる

最初は流線フィルタを使って流線を入れてみます。





流線フィルタのダイアログはこんな感じです。



1 本数

線の本数です。多めにしておいた方がいいです。

2 長さ

線の長さの設定です。

3 幅

線の太さを設定できます。

4 角度

流線の角度を設定できます。90° に設定すると、上からおりてくる流線（あまだれ）になります。

5 間隔

線同士の間隔の設定です。

6 ずれ

この値を大きくすると、勢いのある流線になります。

7 入り抜き

線に入り抜きをつけます。

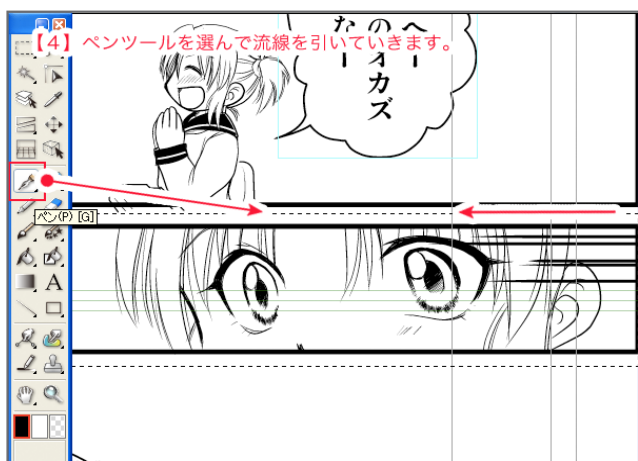
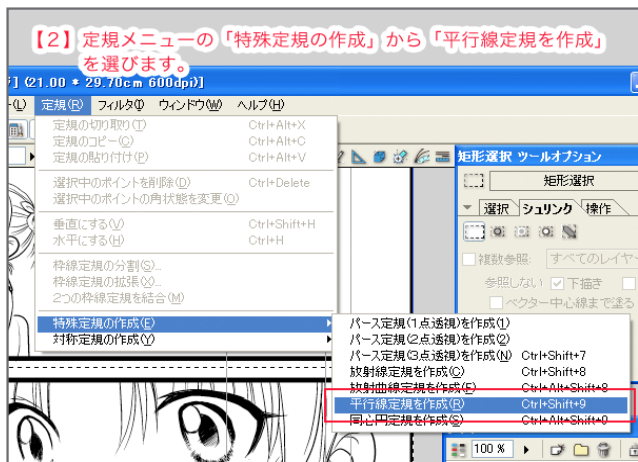
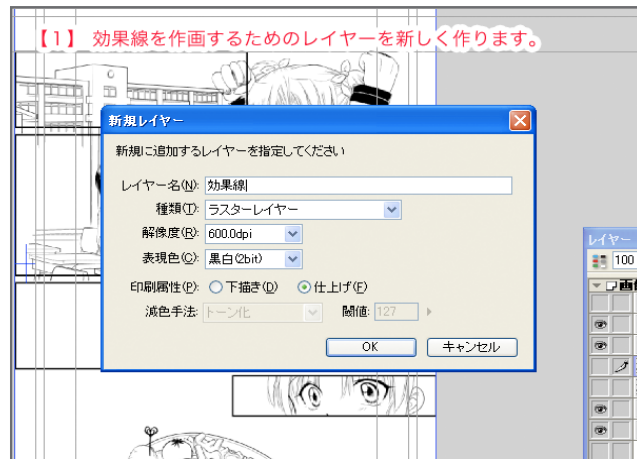
8 描画/背景色

描画する線の色、背景の色を選べます。

流線も集中線と同じように、ダイアログの「鉛筆アイコン」（描画位置の移動）で描画位置を指定できます。流線フィルタの場合、調整しすぎてわからなくなったら、「揃える」ボタンを押すことで、描画位置をリセットすることができます。

平行線定規を使って流線を入れる

次は、平行線定規を使って流線を入れてみようと思います。自分で自由に流線を入れたい時に便利な機能です。



平行線定規の角度を変えたい時は、

1. 「定規選択ツール」で画面をドラッグする。
2. キーボードの「A」（反時計回り）、「S」（時計回り）キーで回転させる。

2つの方法で定規を回転させて、角度を変えることができます。

キーで平行線定規を回転するときの回転量は、「ファイル」メニュー→「環境設定」→「ページ」→「定規」の項目のキー入力の「回転量」で設定できます。個人的には最小値の「0.1°」がおすすめです。

回転させた平行線定規を水平に戻したい時は、定規選択ツールで平行線定規を選択して、定規メニューの「水平にする」を選ぶことで水平に戻すことができます。また、「Shift」キーを押しながら、定規選択ツールで平行線定規を回転させると45°きざみで定規を回転させることができます。

バランスを考えながら流線を引いて、もしはみ出たら、消しゴムツールで消すか、矩形選択ツールで選択して編集メニューの「クリア」で消せばOKです。

平行線定規を使って流線を引くときも、放射線定規と同じく、ペンの設定を「0.8mm／抜き 10mm」くらいで、抜きを強めに入れておくと、キレイな線が引けます。

Point

水平の線がキレイに引けない時は……

デジタルの場合、きっちり水平だと線の抜きがギザギザしてしまい、キレイに線が引けない時があります。そういうときは、平行線定規を少し回転させてあげてから流線を引くとキレイに引けます。

さて、画面に集中線、流線の効果線が入りました。効果線は自分のやりやすい方法で入れてかまわないと思います。ちょっと裏技っぽいですが、もし、自分で描いたり、フィルタを設定するのが面倒だったら、トーンの中に集中線のトーンがあるので、それを貼ってしまうというのも手です。

トーンの話が出たところで、次はいよいよトーンを貼っていこうと思います。